



2026年 6 月期 決算説明資料

株式会社クオルテック 【証券コード：9165】



01

売上高は、信頼性評価事業と微細加工事業で増収となり、前期比+281百万円(+7.0%)増収。当社の主要取引先である車載業界は、電動化、環境負荷低減に向けて、電力削減技術としてのパワー半導体の高効率化、小型化、低コスト化を実現すべく進んでおり、開発段階における信頼性試験の需要は順調に推移。

そのような状況下で、当社は幅広い顧客ニーズにお応えして各事業において着実に対応。信頼性評価事業は、複合的な試験の引合いが強く、環境試験で振動や温度変化、塩水等の試験案件受注が好調に推移するなど、前期比+199百万円(+5.6%)と増収。

微細加工事業は、レーザ加工において通信関連での試作品加工から量産品案件への受注の流れが好調に推移したことにより、前期比117百万円(+28.3%)と大幅に増収。

一方で、その他事業は、バイオでの大口プロジェクトの終了が原因で、前期比△33百万円(△58.0%)と減収。

02

営業利益は、信頼性評価事業で分析・解析での高単価案件が増加したこと、微細加工事業でレーザ量産加工が伸びたことに加え、全社でAI活用など生産性向上の進捗で人員増加が抑えられたことから、営業利益は前期比+104百万円(+27.2%)と大きく成長。

経常利益は、MAPプロジェクトでの補助金影響により前期比+121百万円(+31.5%)。

当期純利益は、前期に投資有価証券評価損を計上していたことから、前期比+165百万円(+75.4%)と大幅に増益。

03

通期業績予想は増収増益を見込む。主要顧客である車載業界を中心に中東・ウクライナ等の地政学リスクに加え米国関税政策発動の影響など、予断を許さない状況であるが、当社安定基盤である信頼性評価事業でのシェアアップ、高付加価値案件の獲得に加え微細加工事業で量産案件獲得などにより、更なる成長戦略を加速させる。

配当については、事業成長に向けた投資余力の確保と安定的な株主還元の両立を基本に一株あたり47円を見込む。

目次

- | 1 決算概要
- | 2 販売概況
- | 3 営業利益増減分析
- | 4 その他経営数値
- | 5 通期業績予想
- | 6 附録（注意事項）

1. 決算概要

売上高は信頼性評価事業と微細加工事業で増収となり、前期比+281百万円(+7.0%)増収。営業利益は高付加価値案件増加と量産案件獲得により、前期比+104百万円(+27.2%)増益。

経常利益は補助金による営業外損益影響+19百万円が影響し、+121百万円(+31.5%)増益。当期純利益は前事業年度において投資有価証券評価損の計上を行っていたことから、+385百万円(+75.4%)増益。

【単位:百万円、%】()内は売上高比

	25年6月期 実績	26年6月期 実績	前期差	前期比
売上高	4,025	4,306	+281	+7.0%
営業利益	384 (9.6%)	489 (11.4%)	+104	+27.2%
経常利益	384 (9.6%)	505 (11.7%)	+121	+31.5%
当期 純利益	219 (5.5%)	385 (9.0%)	+165	+75.4%

1. 決算概要 セグメント別業績

【単位:百万円、%】

		25年6月期 実績	26年6月期 実績	前期差	前期比
信頼性事業	売上高	3,553	3,752	+199	+5.6%
	営業利益	1,061	1,214	+153	+14.4%
微細加工事業	売上高	413	530	+117	+28.3%
	営業利益	184	273	+89	+48.3%
その他事業	売上高	57	24	△33	△57.9%
	営業利益	△13	△19	△6	—
全社費用	販管費 研究開発費	847	978	+131	—
合計	売上高	4,025	4,306	+281	+7.0%
	営業利益	384	489	+105	+27.2%

2.販売概況 セグメント別売上高（前期比/予想比）

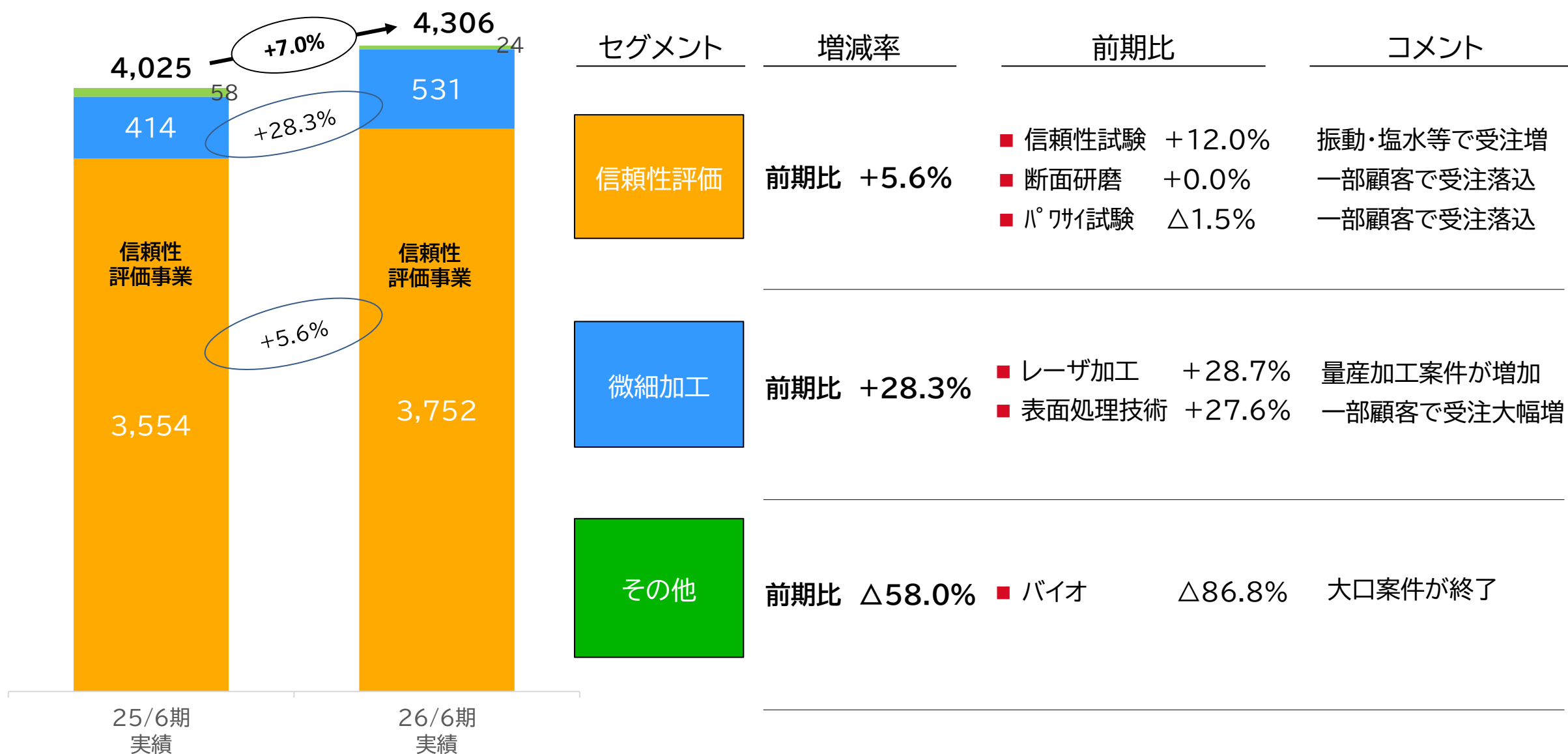
売上高は、信頼性評価事業と微細加工事業で増収となり、前期比+281百万円(+7.0%)増収。

信頼性評価事業は、信頼性試験を中心に順調に推移し、前期比+5.6%増収。

微細加工事業は、レーザ加工において量産案件が好調に推移し、前期比+28.3%増収。

その他事業は、バイオの大口案件の終了により、前期比△58.0%減収。

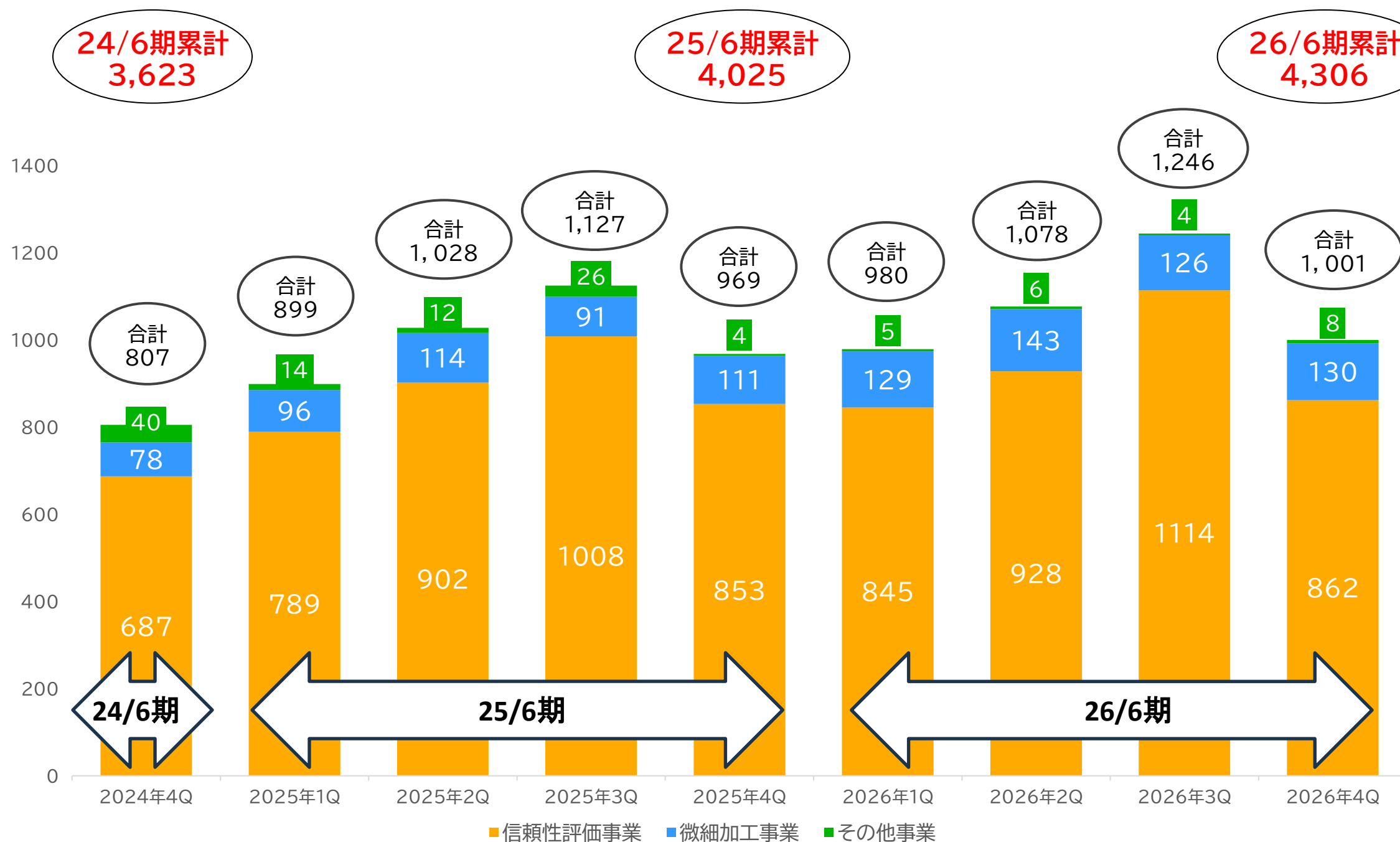
（百万円）



2.販売概況 四半期売上高推移（セグメント別）

全四半期で前期比増収を達成。課題であった第4四半期についても、初めて10億円を達成。

【単位:百万円】

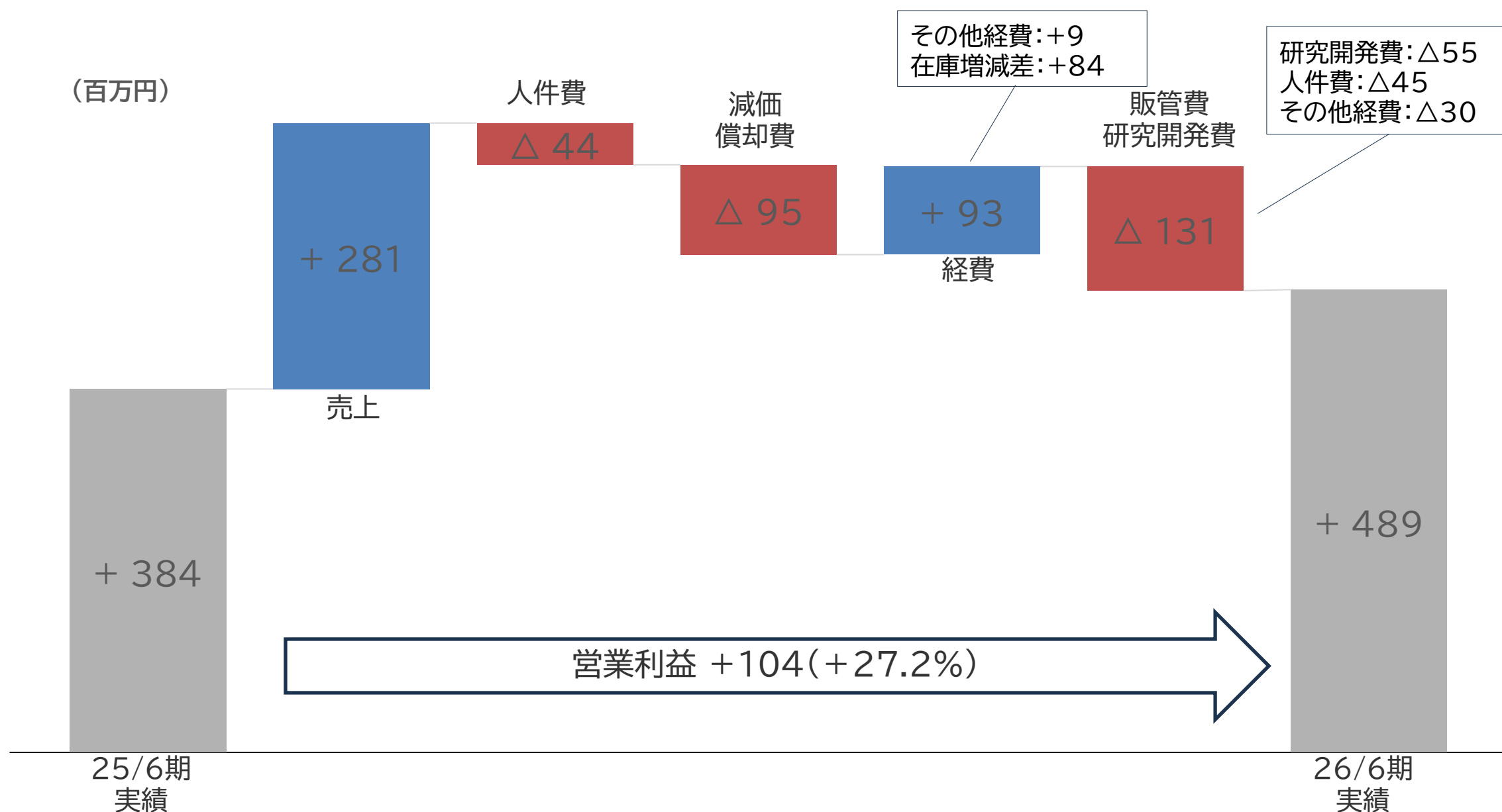


※25/6期から表面処理技術はその他事業から微細加工事業にセグメント変更しております。

3. 営業利益増減分析（前期比/予想比科目別）

営業利益は対前期比+104百万円(+27.2%)増益の489百万円。研究開発を積極的に進めたことで、研究開発費の増加が影響したものの、売上高+281百万円増収及び製造経費の削減により売上総利益は+235百万円増益。

上記要因が、MAPプロジェクトやその他研究開発の推進等も含めた、販管費・研究開発費増△131百万円をカバー。



3. 営業利益増減分析（前期比セグメント別）

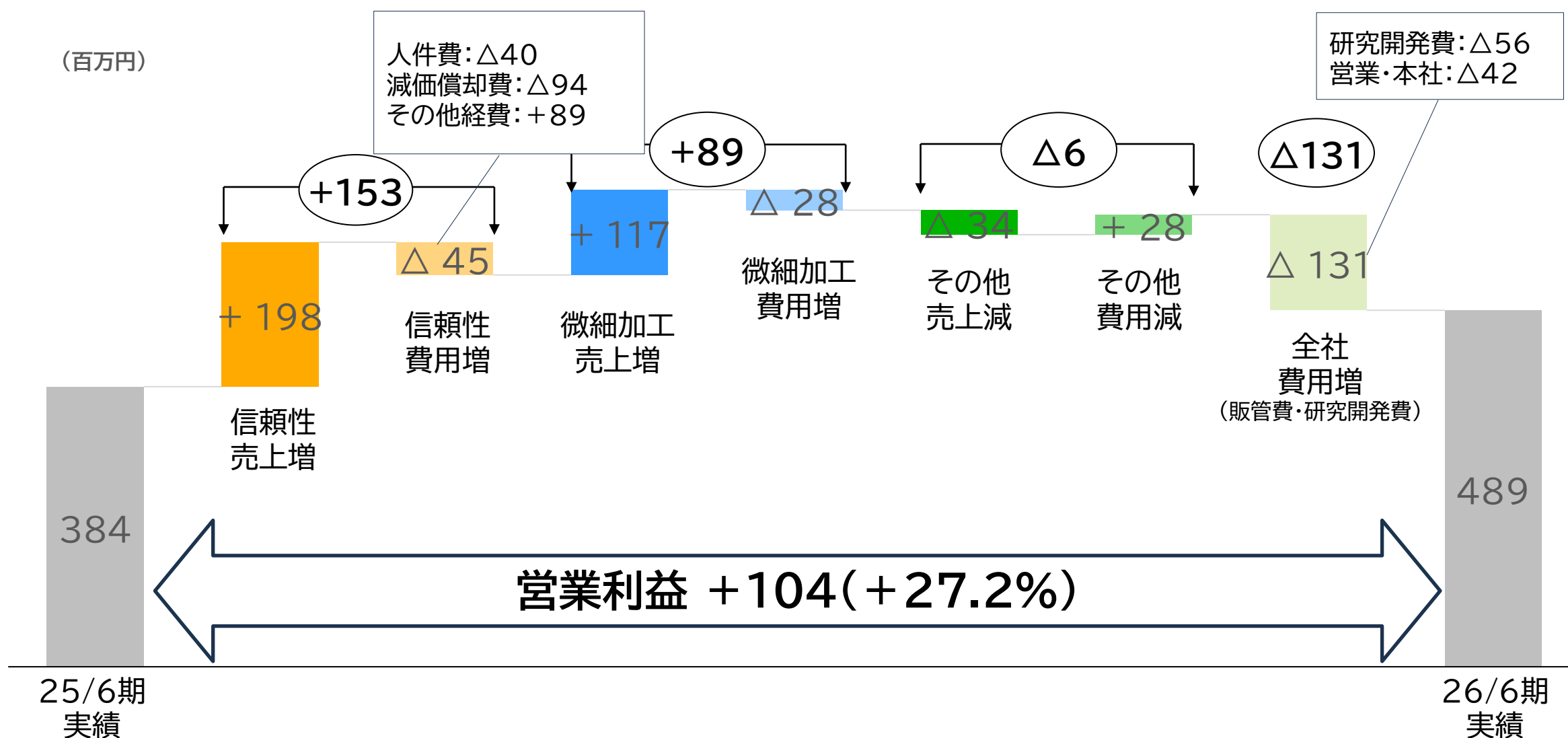
全社営業利益は前期比+104百万円(+27.2%)増益の489百万円。

主力事業である信頼性評価事業は、前年度の大型投資による償却費用増等あるも、増収効果がそれを大きく上回り、+153百万円(+14.4%)増益。

微細加工事業は量産効果による大幅な増収と経費の抑制により+89百万円(+48.3%)増益。

その他事業はバイオの売上減少影響にて△6百万円減益。

全社費用はMAPプロジェクト・その他研究開発の推進及び営業人員の増強により△131百万円増加。



4.その他経営数値（前期差）



その他経営数値の状況は下記の通り。

【単位:百万円,%】()内は売上高比

	25年6月期 実績		26年6月期 実績		前期差
総資産		4,346		4,895	+549
純資産		3,277		3,575	+298
自己資本比率		75.4%		73.0%	△2.4%
現預金残高		1,535		2,281	+746
設備投資		984		433	△550
研究開発費	(4.4%)	179	(5.5%)	234	+55
在籍人員(人)		257		261	+4

5.通期業績予想

業績予想は増収増益を見込む。米国関税政策や中東情勢等による先行き不透明感により、予断を許さない環境下なるも、顧客ニーズを捉えた活動に加え、営業強化の効果により、前期比+294百万円(+6.8%)増収を見込む。営業利益は、ベースとなる車載、半導体メーカーのシェア向上を狙いつつ、信頼性評価事業では高付加価値案件、微細加工事業では量産案件の獲得にも注力。設備・人財や新規事業への成長投資を中心とした固定費増をカバーすることにより、前期比+11百万円(+2.1%)以上の増益を見込む。

【単位:百万円、%】 ()内は売上高比

	25年6月期 実績		26年6月期 実績		27年6月期 予想		26/6期 実績 vs 27/6期 予想	
売上高	4,025		4,306		4,600		+294	+6.8%
営業利益	384	(9.6%)	489	(11.4%)	500	(2.1%)	+11	+2.1%
経常利益	384	(9.6%)	505	(11.7%)	514	(1.7%)	+9	+1.7%
当期 純利益	219	(5.5%)	385	(9.0%)	395	(2.4%)	+10	+2.4%

5.通期業績予想 セグメント別業績

【単位:百万円、%】

		26年6月期 実績	27年6月期 予想	前期差	前期比
信頼性事業	売上高	3,752	4,085	+333	+8.9%
	営業利益	1,214	1,321	+107	+8.8%
微細加工事業※	売上高	530	500	△30	△5.7%
	営業利益	274	275	+1	+0.4%
その他事業	売上高	24	15	△9	△37.5%
	営業利益	△19	△4	+15	—
全社費用	販管費 研究開発費	980	1,092	+112	—
合計	売上高	4,306	4,600	+294	+6.8%
	営業利益	489	500	+11	+2.1%

※微細加工事業の売上減少は、表面処理技術のうち基板評価80百万円が、セグメント変更により信頼性評価事業へシフトした要因あり

5.通期業績予想 セグメント別売上高（前期比）

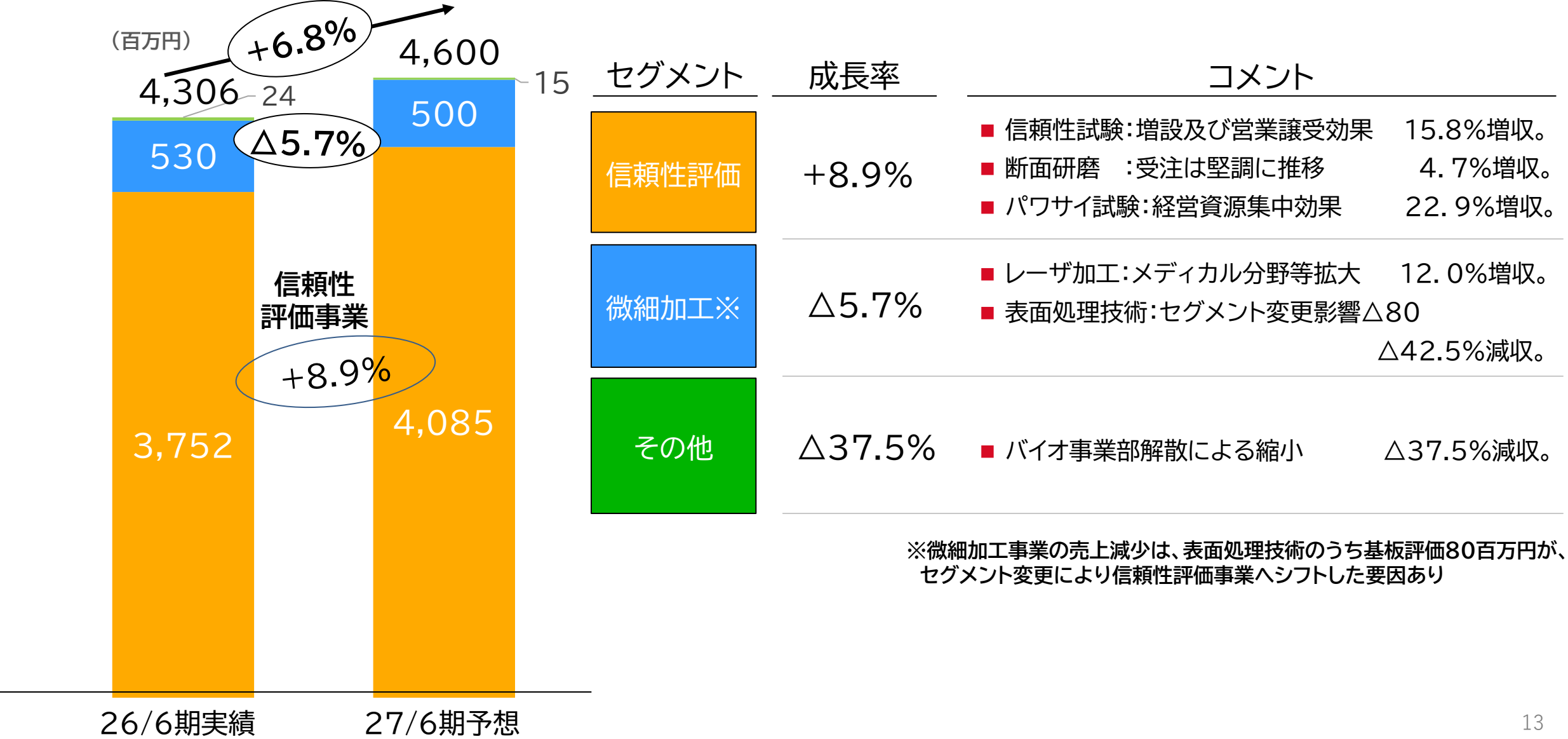
全社売上高は信頼性評価事業及び微細加工事業(セグメント変更分除く)で成長を図り、前期比+6.8%増収。

主力事業である信頼性評価事業は全カテゴリーで成長。信頼性試験は試験メニューと顧客拡大により成長。

断面研磨は受注堅調。パワサイ試験は主要顧客の受注好調。全体で前期比+8.9%増収。

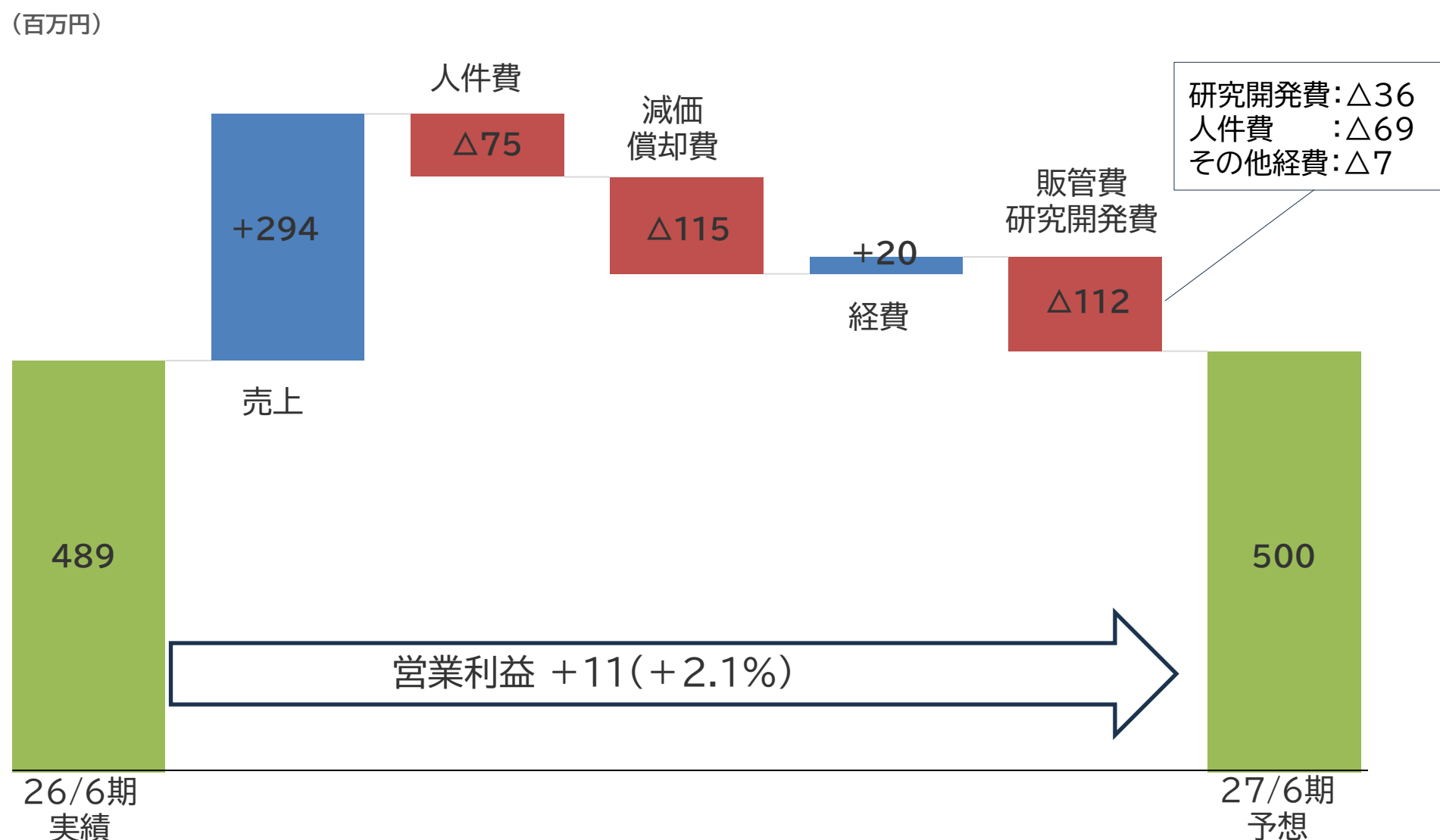
微細加工事業は一部業務のセグメント変更影響△80百万円により、減収見通し。ただし、レーザ加工は昨年来のターゲットであるメディカル分野拡大に加え、AI需要の引き合い対応中で、量産案件獲得に注力中。全体では前期比△5.7%減収。

その他事業はバイオの発展的解消により37.5%減収。



5.通期業績予想 営業利益増減分析（前期比科目別）

営業利益は前期比+11百万円(+2.1%)増益の500百万円を見込む。
信頼性評価事業、微細加工事業の売上増加により+294百万円増収を計画。
事業部門での人件費△75百万円・積極投資による減価償却増の増加△115百万円、本社部門での営業を中心とした体制強化、MAPプロジェクトなど次世代事業への研究開発積極推進等での販管費・研究開発費増による△112百万円をカバーする見込み。



5.通期業績予想 営業利益増減分析（前期比セグメント別）

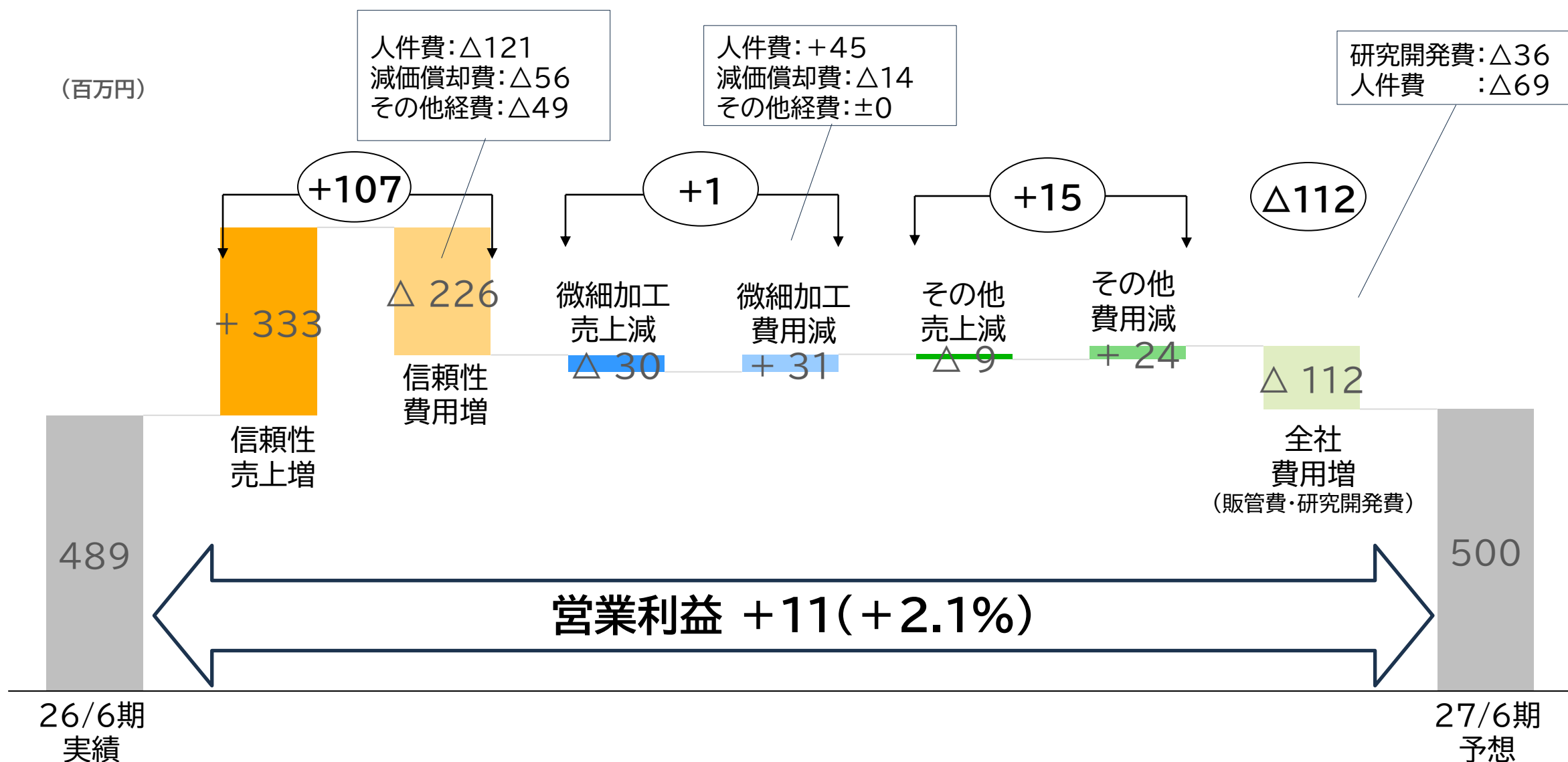
全社営業利益は、前期比+11百万円(+2.1%)増益の500百万円を見込む。

信頼性評価事業は、信頼性・パワーサイクル試験、分析解析の増収効果により+107百万円(+12.7%)増益。

微細加工事業は、セグメント変更を原因とする減収を見込むも、レーザ加工の量産請負効果による費用割合減少で+1百万円(+0.4%)増益。

その他事業は、バイオの部門解消による減収も、費用抑制により+15百万円増益。

全社費用は営業を中心とした体制強化、次世代事業への研究開発積極推進等により△112百万円の減益。



5.通期業績予想 配当予想

事業成長に向けた投資余力の確保と安定的な株主還元の両立を基本ポリシーとして継続。
27年6月期の配当予想については、一株当たり47円を据え置き。

	25年6月期 実績	26年6月期 実績	27年6月期 予想	26/6期 実績 vs 27/6期 予想
当期純利益	219百万円	385百万円	395百万円	+10百万円
1株当たり配当金	37.00円	47.00円	47.00円	±0.00円
発行済み株式数	2,350,000	2,350,000	2,350,000	±0
配当金総額	86,950千円	110,450千円	110,450千円	±0千円
配当性向	39.6%	28.7%	28.0%	△0.7%

6. 附録（注意事項）

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。

これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予測に関する記述には、必ずしも既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。

assists your "thinking"

Qualtec

